

持続可能な 除排雪事業の 構築に向けて

令和5年度に「除排雪事業在り方検討会議」が発足され、3年間にわたり、栗山町の持続可能な除排雪体制について検討してきました。検討会議は、除排雪についての有識者や除排雪作業従事者、地域の代表など20人で構成。これまでの総括として、町に提言書が提出されました。



検討した主な内容

過去3年間で合計14回実施した検討内容は次のとおりです。

- 【1年目】
 - 除排雪実施計画・除排雪実施要領の見直し
 - 除排雪作業施工管理基準の作成
 - ※ 除雪の出勤基準の見直しや除雪作業の圧雪厚の設定
- 【2年目】
 - 除排雪作業員の担い手不足対策
 - ※ GPS 除排雪管理システムの導入
 - 検討・車両や道路環境の整備対策など
 - 出入り口前の雪処理対策
 - ※ 各種広報活動について（小学校への出張授業など）
- 【3年目】
 - 地域と行政の連携について（地域の役割、課題を共有、住民協同の除雪体制、雪捨て場の確保など）
 - どれもすぐに成果が表れることのない難しいテーマでしたが、他市町への視察、事例調査、各立場にある委員の皆さんからの意見をいただきながら、検討をしてきました。

提言書を町長へ提出

3月23日に開催された最後の検討会議において、岡山会長から佐々木町長へ「除排雪事業の改善に関する提言書」が提出されました。

この提言書は、3年間の会議で整理された現状・課題・提言・効果についてまとめた内容となっております。今後の栗山町における持続可能な除排雪事業の構築に向けた道しるべとなるものです。

提言書を受け取った佐々木町長は「地域・業者・行政が一体となつて諸課題に向き合い、これまで苦情だったものが情報提供に変わるようなまちづくりを目指していきたい」と決意を述べました。



地域の声に耳を傾ける

3月26日には、地域と町が除排雪における地域の困りごとや意見を共有することを目的とした「除排雪の在り方懇談会」が開催されました。

町内会長27人が出席し、地域内における除排雪の担い手不足、町の除排雪作業への要望など、コミュニケーションを図る貴重な場となりました。

◆出席者から出された主な意見

- 地域からの情報提供にLINEを活用できないか。
- 市街地では、公園や広場を雪捨て場として使用できることを知らない人がいるようなので、周知をしっかりとってはどうか。
- 自助、共助の重要性は理解できるが、高齢になりどうにもならない部分もある。除雪サービスや愛らぶ活動事業の拡大、除雪機の貸出や購入費補助なども検討して欲しい。

「栗山町における除排雪事業の改善に関する提言」*内容一部抜粋

1. 現状
除排雪事業の労働力は、高齢化や、冬期間のみの不安定雇用などで他業者に流出している。降雪の集中や人員・機材の制約から、5年後、10年後を見据えた時に、現水準の対応を維持できるのか懸念される。

2. 主な課題

- (1) 除排雪作業員の担い手不足
- (2) 除排雪作業員の負担増
- (3) 苦情や問い合わせの受け入れ態勢の整備
- (4) 出入り口前の雪処理（置き雪）対策

3. 提言内容

提言①

業務・支援体制の見直しと担い手の確保

- 除排雪作業従事者の確保と人材育成を見据えた、計画的な除雪車両の更新、路線の見直しや整備

提言②

ICT活用による作業効率化

● 作業状況の把握や指示伝達を効果的に行うための先進技術の導入

提言③

積極的な情報発信（交換）

● コミュニケーション機会（協議会など）を創出し、官民双方による情報交換の活性化を図ることが重要。町民参加型による除排雪体制の構築検討

提言④

町民ニーズの把握

● 行政側の判断だけでなく、町民が日常生活の中で直面している課題や要望を的確に把握するための、アンケートや外部委託による調査・分析

4. 期待される効果

- (1) 安定的な除排雪体制の維持
 - (2) 除排雪作業の省力化・可視化
 - (3) 安全確保の向上、町民理解の促進
 - (4) 町民満足度及び行政信頼度の向上
- ※この提言内容は、町ホームページで公開しています。

町ホームページ↓



3年間を振り返って

町の除排雪事業の在り方を3年間にわたって検討し、この度、提言書を提出できたことは、関係者の皆さんのご協力の賜であると感謝いたします。また、この検討会議でさまざまなことを共有し、新たな仕組みへの方向性を確認できたことは、大変実りあるものだったと思います。

3年間の中で改善できる部分は改善し、地域の皆さまのご協力もお願いしてきました。また、提言した内容を、今後も段階的に検討していく必要があります。

除排雪問題は、公助・自助・共助のすべてが重要であると、今、改めて感じています。本検討会議は終了となりましたが、除排雪事業の検討は、これで終わったわけではありません。行政や、事業者、地域がお互いの理解の元で、安心な暮らしを目指していかなくてはなりません。



栗山町除排雪事業
在り方検討会議
会長 岡山典弘さん